

## 議 事 録

会 議 の 名 称	第 8 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 1 1 月 1 日 (火) 1 9 時 0 0 分～
開 催 場 所	玉里保健センター 1 階 集団検診室
出 席 者	<p><b>【出席委員】</b>  山崎美奈子 小松与士宏 中村 仁樹 陽美美由紀  小松崎由美子 遠藤 康子 額賀 博 長谷川美智子  大山 徳 小林 文雄 塚本 繁雄 林 憲昭  笹目 賢一 羽鳥 文雄 田中 周 鶴町 文男  関 四郎 亀井 優 菊地 和夫 藤田 泰正  大和田智弘 戸田 見成 大槻 良明 荒井 敦  小暮 真一</p> <p><b>【欠席委員】</b>  石塚 匡巳 瀬畑 誠 田山 憲一 小山田香代  久保田浩一 宮本真由美 箱田 俊男 圓尾 康子  園部 文夫 田上 義明 山口 淳 戸田 大我</p> <p><b>【事務局】</b>  加瀬 博正 石田 進 中村 均 吉永 成範  比気 龍司 植田 薫 外之内信浩 戸塚 聡  田村 直弥</p>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集計結果について</li> <li>・玉里小中一貫校（仮称）基本構想について</li> </ul>
会 議 資 料	別 紙 ( 会議次第、 他 )
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開    (傍聴者 0人)

## 【青山建築設計事務所実績説明】

### 【協 議】

#### (1) アンケート集計結果について

委員長 事務局から説明をお願いしたい。

事務局 資料の説明に入る前に前回の委員会でいただいた2つの意見、市外の学校に通っている玉里地区在住の家庭へのアンケート実施と未就学児世帯へのアンケート実施ということについて報告したい。

まず、市外の学校に通っている玉里地区在住の家庭にアンケートを実施してはどうかについて報告したい。市外の学校に通っている理由としては、DV等の支援申請者や海外居住者など、やむを得ない理由によって申請しているという状況から、このような家庭に対して配慮する必要があるため、今回のアンケート実施は見送らせていただいた。

また、未就学児世帯へのアンケート実施については、幼稚園・保育園に協力を依頼した結果、快く引き受けていただいた。また、幼稚園・保育園側から、現在は玉里地区外在住の世帯においても、玉里地区内へ引っ越しを検討している家庭などがあるため、通園している全世帯を対象にアンケートを実施してほしいといった要望があり、玉里地区外の未就学児世帯を含め、全世帯を対象に実施した。

また、参考資料を見ていただきたい。こちらのアンケートは、保護者及び教職員を対象に実施したものとなっている。保護者については、小学2年生、6年生、中学2年生の保護者を対象に実施した。集計結果は、上位3項目を網掛け表記にし、下段にグラフを表記している。この集計結果も資料1とともに協議の参考にしていただきたいと思う。

資料1に基づき、青山建築設計事務所より説明

青山建築 次にアンケート集計結果について、報告させていただく。

まず、P1にアンケート調査の概要について記載している。回収状況は、配布数が1391部、回収数が938部だった。

続いて、集計結果について説明したい。P2は回答者についての質問項目となっている。児童生徒と教職員は『所属する学校』について、保護者には『居住地』について回答いただいた。集計結果のグラフからは、それぞれ学校規模に応じた割合で回答をいただいたことが分かる。『居住地』の選択肢「小美玉市内の玉里地区以外」、「小美玉市以外」の回答については、主に玉里地区に通う未就学児世帯となっている。回答者の『学年について』の内訳は、グラフのとおりとなっている。その中で2人以上の兄弟がいる世帯の割合を斜線で示している。

P3、保護者を対象にした地域住民としての質問項目を説明したい。まず、『教育施設以外に小中学校に求める機能・役割』は、約7割の回答者が「緊

急時の避難場所」としての機能・役割を学校施設に求めている。また、2割以上が「地域交流の拠点」と回答しており、「地域のシンボリックな建物」の回答が1割に満たなかったことから、建物のデザイン性よりも安全で機能的な建物が求められていると考えられる。次に、『学校との関わり方』については、8割以上が「ほどよく関わっていききたい」と回答している。「積極的に関わっていききたい」と合わせると、9割以上が学校との関わりを肯定的に捉えている。

P4と5、児童生徒や学校に対するイメージについての質問項目を説明したい。まず、P4『新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワードについて』は、児童生徒では「にぎやか」、保護者と教職員では「笑顔」という回答が最も多くなっている。全体では多い順に「笑顔」、「元気」、「楽しい」となっている。次に、P5『玉里地区らしい学校をイメージするキーワードについて』説明したい。児童生徒、保護者、教職員それぞれの上位3項目を説明したい。児童生徒においては「自然環境」、「健康・体力(スポーツ)」、「ボランティア」、保護者においては「自然環境」、「健康・体力(スポーツ)」、「交流」、教職員においては「自然環境」、「歴史・文化」、「ふるさと」となっている。全体では「自然環境」が5割以上を占め、次いで「健康・体力」、「交流」となっている。

P6～8、学校施設に対する質問項目について説明したい。P6とP7は『新しい学校施設にあった方が良くと思うものについて』という質問事項になっている。その中の『学習に関するもの』については、児童生徒と保護者において「充実した体育館・グラウンドの設備」という回答が最も多く、3割以上となっている。教職員においては「普通教室の広さ」、「少人数学習教室」がともに上位になっており、それぞれ3割程度となっている。また、『学校環境・校舎内に関するもの』は、児童生徒、教職員及び保護者の全てにおいて「冷暖房」が最も多くなっている。それぞれ次いで多くなっている回答は、児童生徒においては「エレベーター」、保護者においては「トイレの数」、教職員においては「収納スペース」となっている。「その他」の意見では、トイレに関する事項が多くあげられている。続いて、『学校環境・校舎外に関するもの』については、児童生徒において「芝生」が最も多く、保護者と教職員においては利用する頻度が高い「駐車場の数」が多くなっている。児童生徒、教職員及び保護者の全てで「遊具」が上位に入っており、遊びの中での学びの充実が求められている。『その他』については、児童生徒、教職員及び保護者の全てにおいて「防犯カメラ」が上位に入っており、防犯性に配慮した施設整備が必要であると考えられる。また、教職員と保護者においては「死角を少なくした施設」が最も多く、安全面に配慮した施設整備を求める傾向が見られる。P8は、保護者と教職員を対象にした『新しい学校で最も充実させたいもの』についての質問事項になっている。保護者において、最も多かった回答は「自ら学ぶ、主体的に学ぶための学習空間」となってい

る。教職員で最も多かった回答は「教科の充実を図るための機能的な教室の整備」となっている。全体では「自ら学ぶための学習空間」、「快適な生活空間」が多く選択されている。以上をアンケート集計についての報告とさせていただきます。

委員長 アンケート結果について、意見や質問はいかがか。

委員 アンケート集計結果を見ると、教職員が考えることと保護者が考えることで差が出ている。それをこれからどのようにまとめていくのか。また、他の学校を設計した経験があると思う。そこでの意見と同じなのか、違うのかということをお教えいただきたい。

青山建築 設計を行う際、こういった委員会等で話し合いを行うことは少ない。教育委員会事務局と教職員といった、使用者のみの打合せが多いと思う。例えば、ひたち野うしく小学校の場合は、施設管理をされている方に児童の意見を吸い上げていただき、その意見を基に設計の打合せを行ったことはある。また、土浦の小学校においては、ワークショップを行っていると同っている。

委員 今回のアンケートを実際の学校づくりにどういった形で繋げていくのか。子ども達、教職員、保護者でそれぞれ違う意見が出ている。それをどのようにまとめていく方が良いのか、それはこれからになると思う。

青山建築 これから目標を定め、その目標に沿って施設を構成していくように考えているので、このアンケートで意見を吸い上げさせていただいた。これを全て盛り込めるかは別な話だとは思いますが、このアンケートを参考にさせていただき、進めていきたいと考えている。

委員 グラフの作り方についてだが、1つの設問に1つのグラフではなく、色々なグラフを作ってほしい。この集計結果では棒グラフと帯グラフがあり、それぞれ目的が違うと思う。帯グラフで作ると、教職員と保護者の差が如実に現れると思う。様々なパターンのグラフを作ると、様々なことが良く分かると思う。是非そういったまとめ方をさせていただけるとありがたい。また、最後の項目では自由記述をまとめていただいた。これについては、同じ項目毎にまとめていただき、グラフとの紐付けが見える形にさせていただけると資料が非常に活かされると思う。是非そのようにまとめていただけると良いと思う。

事務局 それぞれ異なる結果となった保護者、教職員、児童生徒の回答をどのようにまとめていくかということについては、委員に積極的な意見交換等をしていただき、詰めていければと考えている。また、児童生徒においても、学年によって受け止める内容も違ってくると思う。教職員においても、教科の関係等によって違った視点で回答をいただいているところもあるかと思う。それらも含め、準備委員会の中で意見を出し合い、基本構想に役立てていきたいと考えている。

委員長 その他にいかがか。

委員 アンケート結果を基に青写真が出来てくると思う。「アンケートのここの意

	見がここに反映されると思う」といった議論が出来ると思う。また、他の委員の意見のように、もっと見やすい方が良いのではないかと思う。
委員	自由記述の箇所の順番はランダムとなっているのか。
事務局	ランダムになっている。
委員	それが種類分けされて並んでいると分かりやすいと思う。
委員	参考資料のP1とP2において、アンケートの項目が同じではないかと思うが、回答が違ったものになっている。これは何が違うのか。
事務局	参考資料のP1とP2の設問は学校教育全体についての設問となっている。P1は重要度に関する設問となっている。保護者、教職員ごとに重要度を「重要」、「どちらかといえば重要」、「どちらでもない」、「あまり重要ではない」、「重要ではない」という5項目で回答をいただいている。P2は、現在の学校教育に対する満足度に関する設問となっている。「満足」、「やや満足」、「ふつう」、「やや不満」、「不満」の5項目で回答をいただいている。
委員	それであれば、重要度と満足度の比較が分かるグラフを作ってほしい。重要度が高い項目に対して、不満が多いと困ると思う。重要度が低いものなら我慢できるのではないかということかと思う。
委員長	現在の満足度に関する設問となっているので、これから造っていく学校施設にその重要度を加味して考えていくと良いのではないかと思う。
委員	満足度を上げていくために何をすると良いかを模索しなければならないのではないかと思う。
委員長	その他にいかがか。
委員	設計事務所に質問をしたい。いじめの問題等の関係かと思われるが、アンケート結果では防犯カメラの設置という意見が多い。防犯カメラばかりに頼るのではなく、目の行き届きやすい建物にするといった青写真はあるのだろうか。
青山建築	近年、つくば市やつくばみらい市で校舎が建設されているが、死角をなくすようなストレート型の校舎が最近の学校建築となっている。
委員	トイレは洋式にしてほしいといった意見が出ているが、最近の学校建築はどのようなになっているのだろうか。
青山建築	以前は和式便器を1つだけつけてほしいといった要望があったが、近年の学校建築では殆どが洋式となっており、住宅と同じように用を足せるようになっている。
委員	視察へ行った成田市の下総みどり学園は、既存の校舎に新しい校舎を繋げた学校だった。校舎間に段差があることなど、使い勝手が悪いように私は感じた。そういったことをクリアしてほしいと思う。もし、既存の校舎を使うのであれば、それはそれで良いとは思いますが、そうした方がベターだが、段差や階段で繋ぐ形にならないような設計をしてほしいと思う。
青山建築	そのようにならないようにしたいと思うが、それについては基本設計になってしまう。今回は基本構想なので、そこまで踏み込んだことはできないとは

	思う。
委員長	その他にいかがか。
委員	コンセプトを作るコンサルタントとして青山建築設計事務所に委託したということだったと思う。この後は、コンセプトが決まり、設計、建設ということになると思う。その際には入札を行うのか。
事務局	基本構想が策定された後、基本設計に移行していく段取りを考えている。その際、基本設計に伴う内容提示の上で改めて入札を行って委託先を決めるように考えている。
委員長	先ほど、意見の中でいじめに関して発言があった。確かに死角が少ないことは非常に大事なことだと思うが、建物だけではなく、教職員の子ども達への指導や動き等が大きく関わると思う。施設と教職員の指導が一体となって対処しなくてはならないと思う。

## (2) 玉里小中一貫校（仮称）基本構想について

委員長	青山建築設計事務所から説明をお願いしたい。
青山建築	続いて、玉里小中一貫校（仮称）基本構想について説明したい。裏表紙の目次を見ていただきたい。今後の予定としては、「1 基本構想策定の背景」と「2 玉里地区における小中一貫教育の計画」について11月に作成し、「3 基本構想」～「6 今後の課題」について12月、1月に順次作成していきたい。本日は「1」と「2」の構成について説明させていただく。まず、「1 基本構想策定の背景」について説明したい。P1の構成としては、策定について、課題について、玉里地区および統合する各学校の位置図となっている。P2～5は各学校の現状となっており、同じ構成となっている。各学校の教育目標や現在の教育について、平成18年・平成28年・平成33年の児童生徒数の比較表、学校沿革、敷地面積や構造について記載している。P6～10は「2 玉里地区における小中一貫教育の計画」となっている。その中のP6～9は「(1) 計画の経緯」となっており、これまでの流れを概略図として表記している。P7は小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画の概要、P8とP9は小美玉市小中一貫教育基本方針の概要をまとめている。P10は、「(2) これからの取り組み」としており、小中連携・小小連携プロジェクトについて記載している。以上が暫定的な基本構想についての説明となる。
委員長	意見や質問があればお願いしたい。
委員	平成33年まで児童生徒数の推計を行っていると思うが、20年、30年後には児童生徒数の増減はどのようになるのか。小美玉市として、どのような推計を取ってきているのか。

事務局 各学校の児童数の推計については、平成27年2月に策定した小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画の中で小川北中学校区の統合小学校が開校予定となっている平成35年度の翌年である平成36年度までの数字を出している。現時点では平成36年度までの数字を押さえているということで理解いただきたい。

委員長 第1回建設準備委員会の資料、小美玉市立学校規模配置適正化実施計画を見ると、平成36年度で玉里小学校の児童数177人、北小学校が139人、東小学校が41人とあり、明らかに減っていく推計になっている。

委員 これがピークと思って良いのだろうか。

委員長 どの自治体でも1番悩んでいることだと思う。その他にいかがか。

委員 学校を運営する上で、管理するということが大事だと思う。教員が児童生徒を管理していくことになる。細長く作った場合、非常に管理しにくいという気がする。アパート型のように長い校舎にしてしまうと分散してしまう。学校教育の内容から言うと簡単にはいかないと思うが、分散するのではなく集合できるようなことを含め、管理という点を考えると良いと思う。先ほど防犯という話があった。見やすい、まとめやすいというように管理しやすい形があるのではないかと思う。そういった研究をされた方が良いのではないかと思う。今の学校は横に並べられており、合理的で単価も安いと思うが、それだけではないと思う。

また、まだ設計の段階ではないと思うが、設計事務所には基本設計がある程度できてくる段階で3つ程度の校舎の形を見せていただきたい。そして、委員「このような形はいかがですか」と提供するものを作っていたいただきたい。形にすると分かりやすくなる。お願いしたい。

青山建築 位置や配置について、何点か作成し、この場に提供したいと考えている。

委員長 この意見に対して、学校の管理者としての意見はいかがだろうか。

委員 潮来市には潮来一中、二中という新しく建てた学校があり、校舎が四角形になっている。四角形になっているので、真ん中に中庭のような板張りの箇所があり、校舎内から反対側が見える。そういった点については、管理に関して良いのではないかと思う。そういった学校からの意見を聞いても良いのではないかと思う。

委員長 教員は今まで色々な学校を経験をしている。なので、教員の意見は参考になるのではないかと思う。私が以前に勤務していた石岡の学校の校舎は、職員室が特別教室と反対側にあり、コの字型のようになっていた。盲点になってしまうということもある。

委員 管理しやすい形があると思うので、そういったことを研究していただきたいと思う。

委員長 設計事務所や教職員の考えを参考に聞いていくと良いのではないかと思う。

【その他】

事務局 次回の建設準備委員会は、先ほど青山建築設計事務所が説明にあった基本構想の目次「3」～「6」までを提示していきたいと思う。開催日程は、12月21日（水）を考えている。

19:51 閉会